

加納太靈教院 先代院長25年祭

立正佼成会（庭野曰鑑長）は11月20日午前10時となり、東京都杉並区の本部聖堂で庭野曰鑑会長の米寿記念本部代表参拝「お祝いの集い」（第8回）を開催した。この集いは、3月29日に米寿を迎えた庭野会長を奉祝するため、3月から11月まで（10月を除く）毎月実施してきたもので、今回が全8回の最終回となた。

当曰は、宇都宮教会や宇都教会をはじめ全国30教会の会員が4階ホールに参集した。式典は、庭野会長の歩みを振り返る映像上映で幕を開け、奉祝委員による開幕宣言、米寿記念曲「空のように…」の全員合唱と続いた。「拝啓 会長先生寿ぎの時」では、会員が感謝の言葉や歌を捧げ、心温まるエピソードが次々と披露された。途中、「米寿体操」も行われ、会場は和やかな笑いと歓喜に包まわった。

今回はさらに、特別な記賀が加わった。大和教団の



全8回が閉幕 立正佼成会

「お祝いの集い」

院長)は10月26日午後1時から、北海道深川市の太閤殿で先代院長・加納包靖(ほりやす)（ほりやす）の没後四半世紀の節目に至り、その功績を称え感謝



いて55年間にわたり治病道に励み、2000(平成12)年に78歳で生涯を閉じた。祭典は加納理孝院長が「年祭詞」を奏上(写真)、参会者全員で「礼拝詞」を奉読。玉串奉奠では祭主、院長夫人、役員理事らに続いて全員が神前に礼拝した。祭事終了後に加納院長は「先代・加納包靖は3歳で実母を病で亡くし、10歳で進学のため実家を離れ、大学卒業直後に太平洋戦争に出征しました。終戦後に23歳で樺太の収容所から復員するまで家庭に居ることはありませんでした。昭和28年には大火により長男長女

を喪くして寂しさを抱えた生涯でした」と振り返った。一方で「そのような境涯にあったからこそ、来院者に家庭内での愛情が必要である」と説いていたように思えます。お祭りに来た信者さんと過ごす一时刻とても大切にしていました。父が願ったように当院は信者さんに実家のような場所でありたく思います」と述べた。

この後、加納院長から臨時の教務報告があり、令和8年より毎年10月に「地靈祭典」を秋季例祭として斎行することが発表された。

25年祭は参会者全員の拍手賛同を受けて終了した。

**安食天恵宮主三
信徒と共に歩**



安食天惠宮主二十年祭
信徒と共に歩んで

立正佼成会（庭野曰鑑長）は11月20日午前10時となり、東京都杉並区の本部聖堂で庭野曰鑑会長の米寿記念本部代表参拝「お祝いの集い」（第8回）を開催した。この集いは、3月29日に米寿を迎えた庭野会長を奉祝するため、3月から11月まで（10月を除く）毎月実施してきたもので、今回が全8回の最終回となた。

当曰は、宇都宮教会や宇都教会をはじめ全国30教会の会員が4階ホールに参集した。式典は、庭野会長の歩みを振り返る映像上映で幕を開け、奉祝委員による開幕宣言、米寿記念曲「空のように…」の全員合唱と続いた。「拝啓 会長先生寿ぎの時」では、会員が感謝の言葉や歌を捧げ、心温まるエピソードが次々と披露された。途中、「米寿体操」も行われ、会場は和やかな笑いと歓喜に包まわった。

今回はさらに、特別な記賀が加わった。大和教団の



心をつなぎ、未来へ 青年部結成60周年記念大会

御誕生百年祭 初代宮司が拓いた道の継承を誓う

光神社初代宮司に就任。養母である本山キヌエ教祖が神示を受けた小豆島土庄町北山に本宮を設立し、小田原市根府川に修練道場を建設。瞑想行を通じて信徒・一般人の心身の鍛錬を行うなど教化に努めた。

また、92（平成4）年には米国カリフォルニア州にカリフォルニア人間科学大学(California Institute of

for Human Science : CHH を創立し、宗教心理学と教育活動にも取り組んだ。2010(平成27)年、息子の本山一博権宮司を継承、本山博宮司に就任した。本山は同年9月、「神戸」(逝去)した。

百年祭の祭儀は本山を斎主に、修祓の儀、一拝、降神の儀で「大神様」(初代宮司)を行った。献饌の儀に続き、宮司が祝詞を奏上。一同で「御神訓」「玉の奏上」、「十五條の訓」を連唱した。

樂師による雅樂奉納

串奉奠を本山宮司と役員
來賓、信徒らが行つた。
神の儀、宮司一拝、「妙
之神様」(本山キヌ工教祖
参拝で祭儀を終了した。
小憩の後、妙清会館で
宴が催され、初代宮司の
みと功績をたどる写真や
像が上映された。

本山宮司が神前に向
い、「お祝いの言葉」を
べた(写真)。自身が若
頃から気付いていた、初
宮司の精神と物質の相互
作用への問題意識に触れた
その上で、初代宮司から
(平成14)年に、龍樹菩
(2世紀、インドの仏教哲
の「空」を説いた『中論

（但）昇光映歩祝か述い代02薩（信）

を学べば教えを自在に説くようになるとの示唆を受け、研究を重ねてきたことを紹介。空の思想と、精神原理・物質原理の相互闘争を解明し、「父上は、龍菩薩以来の空の思想を」00年ぶりに、大きく前させたと思う」と語った。さらに「父上が開けられ扉の向こうに踏み込み、語化・論理化していくたま父上の拓かれた道を後続歩めるような準備をしたと誓う」と述べた。

祝宴は来賓祝辞、信徒による歌と演奏、初代宮司まつわるクイズ大会があり、盛会となった。

現を祈念いたします

(50音順)

八
龜山 晃妙寺

天光教

宗教法人 日月会

管長嘉

大阪市天王寺
電話代表大阪○

總本部

世界各国の紛争等の平和的解決を—「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を目指します

A. S. KARIMI



新宗連青年会

第60回「戦争犠牲者慰靈並びに平和祈願式典」(青年平和式典)

祈りを行動へ 青年が担う慰靈と平和の継承

国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑

11月30日



主催者あいさつ 新宗連青年会

委員長による主催者あいさつ

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の保松秀次郎理事長による米賀あいさつ

15教団による教団別礼拝、

加盟教団青年代表者の「平和」

のメッセージ「奉上」参列者一

同での黙祷、石倉寿新宗連理

事長のあいさつなどが続いた。戦

後80年の節目にふさわしい厳肅

な式典となった。

式典では、開式とともに、新

宗連青年会の代表12人による獻

灯と千羽鶴の奉納が行われた。

祈りの原点を再確認

主催者あいさつに立った宮本

委員長は、同式典の開催時期の

変更について言及した。新宗連

青年会は1961(昭和36)年

11月に結成し、翌62(同37)年

4月に第1回式典を千鳥ヶ淵戦

没者墓苑で実施。その後は68

(同43)年8月14日式典と

開催する通称「8・14式典」と

して半世紀以上にわたり親しま

れてきたが、節目となる第60回

を機に原点に立ち返る機会とな

ったと説明。変更の是非を問うの

ではなく、「この変化をきっかけ

に今後どのように歩んでいくか

を継続的に考え続けることが

大切だ」と語った。

来賓あいさつ 保松秀次郎理事長

では、「80年前の慰靈

を続ける意義をきちんと学べているの

か」「戦争犠牲者が

来賓あいさつ 保松秀次郎理事長

は象徴的な日だが、

本来は「いつでも、

戦争犠牲者に心を寄

せるべきである」と曰

々内省している」と語り、

祈りの継続を呼びかけた。

一方、青年会内部

では、「80年前の慰靈

を続ける意義をきちんと学べているの

か」「戦争犠牲者が

来賓あいさつ 石倉寿一理事長

は「80年前の慰靈

を続ける意義をきちんと

学ぶ」と述べた。

新宗連代表あいさつ

石倉寿一理事長

は「80年前の慰靈

を続ける意義をきちんと